

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4679500126
法人名	インターナショナル・ホスピタル・サービス株式会社
事業所名	グループホーム 岬
訪問調査日	平成 22 年 3 月 17 日
評価確定日	平成 22 年 4 月 20 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4679500126
法人名	インターナショナルホスピタルサービス株式会社
事業所名	グループホーム 岬
所在地	鹿児島県大島郡知名町田皆2241番地 (電話) 0997-93-1502

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成22年3月17日	評価確定日	平成22年4月20日

【情報提供票より】(平成22年2月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 一部鉄骨		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円 (水道光熱費)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(2月9日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.1 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沖永良部徳州会病院 ・ 松尾歯科医院
---------	--------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

診療所だった建物を改装し開設してから5年が過ぎ、「馴染みの顔・馴染みの環境があれば、自分らしく生きられる」という理念を実践しているのが見えるホームである。管理者と職員は地域に開かれたホームとして、地域の人々と気軽に行き来できる環境を築きあげているのが、子供達が遊びに来たり、近隣住民と共に消防訓練の様子からも伺える。利用者一人ひとりを尊重し、最後の旅立ちまでお手伝いしたいという思いで支援しているため、ターミナルケアを行うことで利用者に対する職員の気持ちが一つになり団結力が生まれている。利用者の笑顔がケアの充実した様子を顕わしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題なし。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員一人ひとりが意見のある項目に記入後、朝礼時や職員会議後に話し合いまとめている。利用者一人ひとりについて出来る事は何か、出来ないことは何かを確認しながら、自立支援につながるアイデアを出し合い実行するなど、自己評価を通してケアの振り返りと職員の意欲を引き出している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は定期的開催し、事業所から、運営推進会議の目的の説明や外部評価の変更等の報告後にメンバーの意見交換が行われている。行政からホームへの入居希望者が多い事や地域行事への積極的参加の要望、地域代表からは、ゴミ置き場が臭いもなぐきれいになっていることへの感謝と地域とホームが良い関係を築けているので今後も交流を深めていけるようにという意見をサービスの向上に繋げていけるように取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が意見を表せる機会は、年1回の家族会、運営推進会議、意見箱、苦情相談の第三者委員、面会時等である。出された意見や要望は、申し送りノートに記入し申し送りで伝え共有し、話し合いが必要であれば職員会議で話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣住民に受け入れて貰える様に開設以来、利用者と共にゴミステーションの掃除を続けている。近所から野菜をもらったり、地域の方が介護の相談に来られたり、老人会に手作り菓子の差し入れをするなど交流を深めている。管理者は人の集まる所に利用者と一緒に行き、認知症の話をすることで理解してもらい偏見をもたれないよう努力をしている。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「馴染みの顔、馴染みの環境があれば認知症でも自分らしく生きられる」という理念を、平成20年に職員と話し合って作り変えている。地域の方に気軽に立ち寄ってもらえる環境を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝理念を唱和して、理念に触れてから支援するようにしている。また、地域の人が集まっている所に利用者で行き、認知症について理解してもらい馴染みの関係ができるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として利用者と共にゴミステーションの掃除を開業以来行うことで地域との交流も深まっている。老人会の方々が歌を歌いに来てくれたり、野菜や縫った雑巾を持ってきてくれたり、小学校や保育園児のボランティア、中学生の職場体験の受け入れなど、幅広く交流する機会を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が意見を記入した後に、朝礼や職員会議で話し合いまとめている。職員の気づき、例えば筋力低下になっている箇所のリハビリ体操を行ったり、排泄時には自分で行えるようにパットを見える位置に置き繰り返し誘導することでできるようになるなど、自己評価が職員の意欲に繋がっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催し、事業所から運営推進会議の目的や利用者の状況、職員の異動等の報告後に各参加者の意見交換を行っている。行政から岬への入居希望が多いという情報や地域代表から、ゴミステーションの清掃への感謝や行事の情報を得ることで利用者の参加に繋がられるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の保健福祉課の担当者へホーム便りを届けたり、情報を提供しアドバイスを頂くなどサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	岬便りは年4回、日頃の様子の写真と行事案内、職員の異動等を記載し発行している。また、利用者一人ひとりに職員が、健康面や生活面での様子を記した手紙を書いて毎月送付している。事業所での金銭の預かりはなく、利用者の管理できる金額を本人が持っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年1回、行事に合わせて行っているが、あまり意見や要望はなく感謝の言葉が多い。その他家族が意見を表せる機会は、運営推進会議や第三者委員、面会時等である。出された意見は申し送りノートに記載し、必要であれば職員会議で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年間の職員の異動は殆どなく、馴染みの職員による支援がされている。管理者は、職員がゆとりある介護ができるように、職員の考えを尊重し大まかな用事だけを決めるなど、働きやすい環境に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人も職員研修の必要性を理解しており、法人内研修の他、島内外の研修にも多くの職員が参加できるように配慮している。また、毎月ある職員会議では、マニュアルに沿った勉強会も行い、資格取得に向けての支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島地区グループホーム連絡協議会にも加入し、協議会主催の研修会や交流会にも参加している外、系列のホームとの交流会、事例検討会を行うことでサービスの質を向上できるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域からの入居希望の場合には、何回も見学に来てもらい、洗濯物たたみやレクレーションなどの体験、お茶のみなどをしながら安心感を持って入居できるように、馴染みの関係を築いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を把握し、昔の話を聞いたり、生活の知恵、洗濯物の干し方や郷土料理などを教えてもらっている。夜勤時などでは、職員の体を気遣ってくれるなど支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ビックリ、ドッキリ自由帳に利用者の気づきを書き込んでいる。言葉に言えない人でも表情で理解するように努めると共に、耳の聞こえない人とは筆談で把握している。思いは変化があるので、聞きだすように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の課題を職員にあげてもらい検討会議で話し合った内容と、家族に来てもらうか電話等で確認した家族の意見をもとに担当者会議を開き、必要であれば主治医の意見も参考にしながら、本人がより良く生活するための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人と家族が望むサービスと職員が提供するサービスの食い違いがないように、3ヶ月に1回は職員とサービス内容に対する検討会を行い、6ヶ月に1回は家族との話し合いを持つようにしている。状態の変化や、家族の要望があった場合には、その都度見直し、その人にあった計画を立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎月1回かかりつけ医による往診の他、家族からの要望があれば病院受診にも付き添っている。また、墓参りや面会に来れない家族の都合に合わせて自宅に連れていくなど、本人や家族の要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望するかかりつけ医となっている。協力病院がかかりつけ医となっている方は、毎月の往診があるが、それ以外は、家族の協力をもらいながら受診している。受診の際には、適切な医療が受けられるように情報を提供し、家族とも情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応方針を家族に説明し、医療機関関係者との話し合いがなされている。訪問看護と契約し、医療機関との連携による看取りにも対応している。職員の看取りに対する理解と研修も行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関する勉強会を行ったり、ミーティング時には、声の掛け方、声の大きさ、馴れ合いにならないように、個人の良さを見るようにと指導している。記録物の保管も適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、起床、就寝、食事時間、入浴などその人のペースに合わせている。地域の馴染みの床屋さんに連れて行ったり、お店での買い物、かもを見に近くの用水地に散歩に行くなど、本人の希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者に希望を聞いたり、冷蔵庫にある食材を説明し何を作ったらいいか聞き出し、野菜を切ったり、下ごしらえ、後片付けなど利用者は力量に応じて手伝っている。誕生日には、利用者の好きなものを作り、手作りケーキでお祝いするなど楽しめるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が入浴したい曜日を決め、順番や時間は、体調を見ながら配慮し、最低でも週2回は入ってもらうようにしている。拒否する方には、誘導のタイミングや声かけの仕方を工夫しながら対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る力を発揮してもらえるように、洗濯物を干したり、畳んだり、手すり拭き、口拭き用のちり紙を折る等の役割を作っている。楽しみ事は、散歩やカラオケ、季節毎の行事等であり、遠出のドライブを個別に対応することが利用者の気晴らしとなり喜んでくれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の気分転換や心身の活性化のために、散歩は日常的に行われている。近くの商店に買い物に行ったり、車椅子の方でも用水地にいるかもやカメの様子を見に行くなど楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害については、開設当初の実態経験から学んでいるため鍵はかけていない。利用者が外出したい様子が見えた時には、寄り添い、見守り自由にしてもらえるように配慮している。もし、一人で外出しても地域からの協力体制はできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導で行われる昼夜想定避難訓練の他、年2回の自主避難訓練、消防点検を行っている。火災予防のため、コンセントの埃に気をつけたり、たこ足配線をしないように注意し、避難経路も確保している。近隣住民とも一緒に避難訓練を行っており、協力体制もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は、個々に把握し記録して職員が共有している。栄養のバランスは、法人の管理栄養士からのアドバイスを貰い、嚥下についても勉強している。食事形態も、一口大や刻みなど一人ひとりに合わせ支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	診療所あとの改装だけに多少の不便もあるが、台所からリビングが見えるように大きな鏡を置いたり、ソファやベンチを所々に置き歩行出来るように、疲れたら休めるようにするなど工夫している。壁には、季節ごとの壁飾りを職員と一緒に作っている。テーブルには季節の花を飾り、島唄や演歌など好きな音楽を流し居心地良く過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の認知の症状と状況を見て、夜間の転倒などに注意が必要な利用者には、職員の待機場所に近い居室に移動してもらえるように説明し、新しい入居者がある時に移動するなど工夫している。利用者は、使い慣れたタンスや椅子、大切な写真やラジカセなどを持ち込み自分らしい居室となっている。		